

経営比較分析表（令和5年度決算）

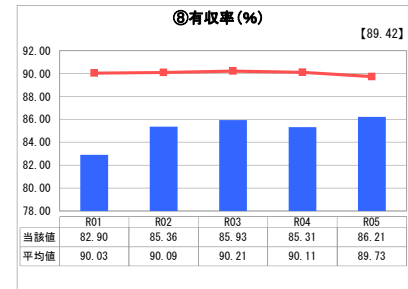
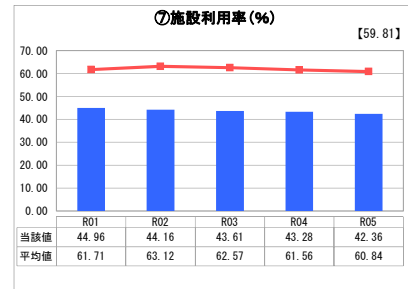
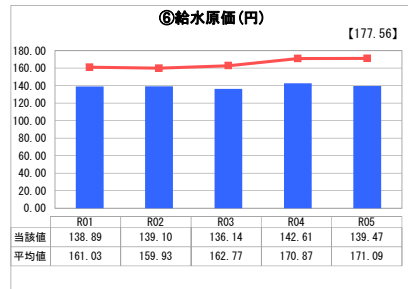
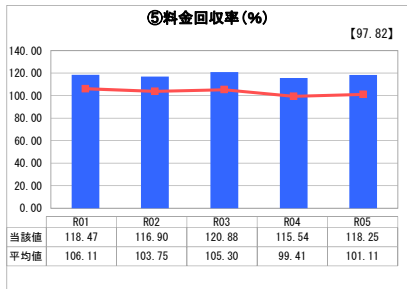
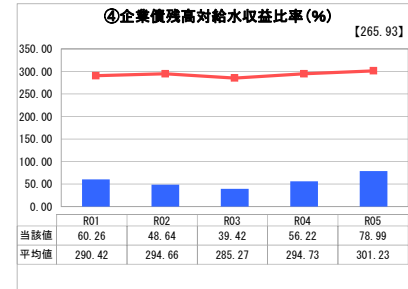
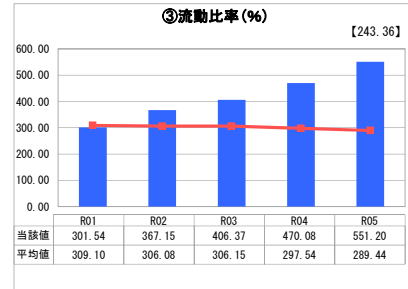
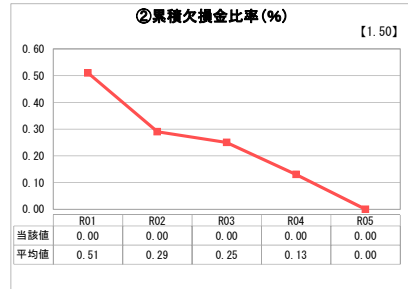
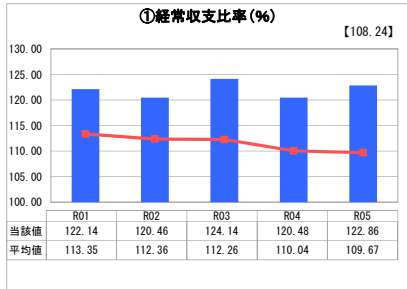
山梨県 甲府市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.68	98.84	2,937	

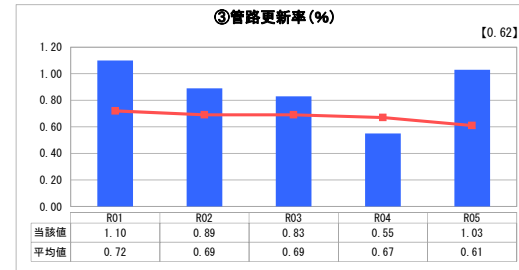
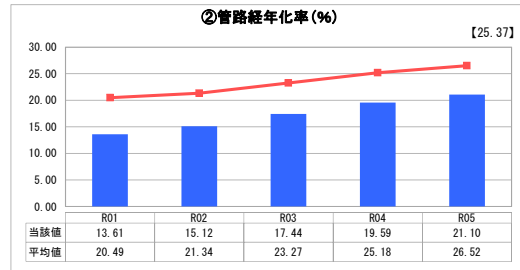
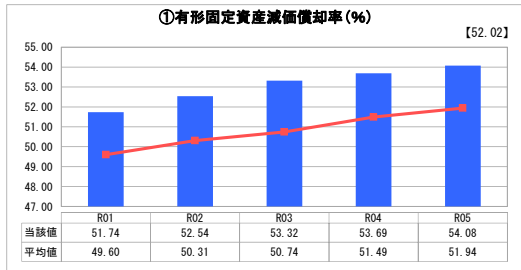
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
184,827	212.47	869.90
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
232,650	92.45	2,516.50

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、引き続き100%を上回っていることから、給水収益等により維持管理費や支払利息等の費用を賄えている。類似団体の平均と比較しても高い数値であり、安定した経営状況を維持している。

流動比率は、施設更新時期を迎えたことに伴い、企業債を多く借入れたことで流動資産が増え、前年度と比較して上昇している。100%を大きく上回っていることから、短期的な債務に対する支払能力は十分に確保できている。

企業債残高対給水収益比率は、施設更新財源の確保と世代間負担の公平性を目的として、企業債を多く借入れたことで前年度より上昇しているが、事業拡張期に借り入れた企業債の償還が進んでおり、類似団体の平均と比較しても低い数値である。

料金回収率は、引き続き100%を上回っていることから、給水に係る経費を給水収益で賄えている。給水原価は、経常費用の減少により前年度と比較して下降しているが、今後も物価や労務費の上昇が見込まれるため、経常経費の抑制を行い経営の効率化を図っていく。

施設利用率は、下降傾向にあり、類似団体の平均と比較しても低い数値である。施設の統廃合や再構築、適正規模を検討し施設の最適化を進めていく。

有収率は、前年度と比較して上昇しているが、類似団体の平均と比較しても低い数値である。今後は新技術の活用を検討するとともに鉛製給水管等の布設替えを着実に進め、有収率の向上を図っていく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、前年度と比較して上昇し、管路経年化率も、管路の経年化により上昇傾向にある。

管路更新率は、前年度と比較して上昇し、類似団体の平均と比較しても高い数値である。

今後は、施設や管路の老朽化を示す、有形固定資産減価償却率や管路経年化率の状況を踏まえ、アセットマネジメントの手法を取り入れるなかで、施設の適切な維持管理を行うとともに、更新投資の適正化を図り、計画的・効率的に施設や管路等の更新を進めていく。

全体総括

本市の水道事業は、高度経済成長期に整備した施設の更新時期を迎えるとともに、人口減少等により水需要の減少傾向が継続する厳しい経営環境のなか、経営戦略に基づく事業を着実に進め、経営基盤の強化に努めた。

経常収支比率及び料金回収率の指標からは、経営の健全化・効率化が継続的に確保されていると判断できる。

物価及び労務費の高騰により、今後も経常費用の増加が見込まれるが、「甲府市上下水道事業経営戦略」に基づき、中・長期的視点に立った経年施設整備及び管路更新等の事業を着実に進めることにより、施設の強靱化等を図り、将来に健全で安定した水道事業を築かれるように、効率的な事業経営に努めていく。